

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名:

環境理工学部

部局長名:

木村邦生

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
<p>①-1 目標</p> <p>1 教育の実施体制(組織的なFD, 教員のインセンティブ向上)について 平成8年から継続実施している教員対象の研修会を実施する。学内外から幅広い分野の専門家も招聘し、最新の課題を学びFDに活用する。 アクティブラーニング、ICTの活用や英語による授業など、新しい教授法を導入した教員に対するインセンティブを検討する。</p> <p>2 教育方法・内容について 60分4学期制の導入による教育効果を検証するとともに、時間外学習の促進も含めた単位の実質化に寄与する効果的な教育方法を検討する。また、学生に対して実施するアンケート調査の結果も参考に、カリキュラムや時間割についても検証し、必要に応じて改善を図る。さらに、講演会や講習会を開催し、アクティブラーニング、反転授業など先進的な教授法の導入を進める。 本学部の特徴でもある専門基礎科目「実践型水辺環境学及び演習」「ESD実践演習」の内容の見直しを行い、県や市、NPOなどとの連携を更に強化し、実践型社会連携教育の充実を図る。 TOEICスコアの追跡調査を行い、TOEICスコアを卒業論文履修要件に課した効果を検証する。 外部検定試験も含め、学生の学力向上に資するインセンティブのあり方を検討するなど、学生の更なる英語力の向上に資する方策を検討する。 学部独自のキャリアサポート室を中心に全学部体制でキャリア教育を実施し、学習の動機付けを図る。研究科と連携協力し、大学院への進学率を高めるとともに、女子学生の博士後期課程への進学を促すための方策を検討する。</p> <p>3 教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について Q-cumシステムや卒業認定試験により学生の達成度評価を実施し、定量的な質保証に活用する。JABEE認定継続の取組などにより、学生の出口での質保証のあり方についても継続的に検討する。</p> <p>4 学生支援について クラスアドバイザーによる一般的な支援の他、TAによる学習支援、キャリアサポート室を中心とするキャリア支援を継続する。特に、H29年度より学内協力教員が他大学へ転出することを受け、今後の学生支援体制の見直しを行う。 学生の出席状況を情報共有するなどにより学業不振者を早期発見するとともに、適切な指導・支援を行うための体制構築について検討する。</p> <p>5 国際共同による教育の状況について タイ国カセサート大学と共同実施している国際交流プログラム「GP特別コース」を継続するとともに、新たに加わった国立台湾大学を含めたプログラムの効率的な運用と拡充を図る。 H28年度に立ち上げた企業との連携による国際インターンシッププログラムに参加する学生の対象を学部全体に広げるとともに、更なる拡充を図る。 カナダブリティッシュコロンビア大学とのCo-opプロジェクトに積極的に参画する。 オランダデルフト工科大学との学部間交流を推進する。</p> <p>6 外国人留学生の受入状況について 英語ホームページの充実を図る。グローバルディスカバリープログラムに提供予定の英語科目をEPOK学生やグローバル人材育成特別コース生などを対象に試行的に開講する。この際、動画配信などにより、正規留学生の志願者増加を図る。</p> <p>7 倫理教育の充実について これまでに実施してきた技術者倫理教育、ならびに研究倫理教育を引き続き実施するとともに、環境倫理教育を新たに実施する。</p> <p>8 その他 ・勉学意欲の高い受験生の確保 高等学校訪問、高大連携事業の推進および学生募集支援企画(「夢ナビ」)のミニ講義やオープンキャンパス時の保護者対象説明会の開催など、積極的な広報活動を展開し、学部アドミッションポリシーに合った受験生確保に努める。</p>	<p>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1 教育の実施体制(組織的なFD, 教員のインセンティブ向上)について 本年度も教員対象の研修会を4回(4/26、7/26、10/25、1/24)実施し、最新の研究・教育課題を学びFDに活用した。</p> <p>2 教育方法・内容について 60分4学期制の導入による問題点について、専門科目の再履修と教養英語の時間割の重複の改善などカリキュラムの見直しを行った。学生アンケート調査を実施し、その結果を学部教員で共有しFDに役立てた。学部で開講している講義の授業形態を調査し、演習を取り入れている講義が多くある実態を把握し、アクティブラーニングへの動機付けを行った。 本学部の特徴でもある専門基礎科目「実践型水辺環境学及び演習」と「ESD実践演習」の内容の見直しを行った。EDS実践演習では県や市、NPOなどとの連携を強化した。 TOEICスコアの追跡調査を行い、TOEICスコア向上を目指した「英語力向上講座」を開講し、学生の英語力の向上を図るとともに、次年度開講の「基礎英語演習」の内容を確定させた。 学部独自のキャリアサポート室を中心に全学部体制でキャリア教育を実施した。</p> <p>3 教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について Q-cumシステムを利用した学生指導についての情報を共有した。JABEE認定継続の取組も行った。</p> <p>4 学生支援について クラスアドバイザーによる学生生活支援、TAによる学習支援、キャリアサポート室を中心とするキャリア支援を継続実施した。 学生の出席状況を共有し、早期の指導・支援を行った。</p> <p>5 国際共同による教育の状況について タイ国カセサート大学と共同実施している国際交流プログラム「GP特別コース」を継続開講し、学部生4名をタイに派遣し、8名の学生をタイから、本年度新規に国立台湾大学から6名の学生を受け入れた。地元企業との連携による「環境ものづくり国際インターンシッププログラム」に参加する学生の対象を学部全体に広げ、7名の学生が本プログラムに参加した。カナダブリティッシュコロンビア大学の学生をCo-opプロジェクトで、各2週間2学科で受け入れ、学生との交流を図った。</p> <p>6 外国人留学生の受入状況について マレーシアからの留学生を4名受け入れ、学習支援に心がけながら教育を行っている。グローバルディスカバリープログラムに提供予定の英語科目を本学部学生対象に開講する体制を整備した。上記の様に、GP特別コースおよびCoopプログラムで学生を受け入れた。また、オランダデルフト工科大学からの学生も受け入れた。</p> <p>7 倫理教育の充実について 本学部の特徴である技術者倫理教育、研究倫理教育を継続して実施した。新たに、環境倫理教育をガイダンス科目「環境理工学部概論」で実施した。</p> <p>8 その他 本年度も高等学校訪問を行い、高校の動向やニーズの調査を行うとともに次年度以降の新規事業開拓に役立てた。高大連携事業として出張講義・高校の受け入れを継続して行った。学生募集支援企画(「夢ナビ」)のミニ講義でも参加で高校生へ、オープンキャンパス時の保護者対象説明会の開催で保護者へ積極的に本学部の特徴をアピールした。 実践型海外研修拡充のために、ベネッセと協働で学部1年生を対象とした「英語で学ぶニュージーランド環境研修プログラム」を開発し、平成30年度に向けた実施体制を整えた。</p>
<p>①-2 大学全体への貢献</p> <p>本学の組織目標の「1 大学として定める目標」の「② 学びの強化のための諸施策の実施」については、学部組織目標「1 教育の実施体制」「2 教育方法・内容について」に教授法の改善に向けた研修会、講習会や講演会の実施や学生アンケートに基づくカリキュラム改善を盛り込んだ。さらに環境理工学部教育の柱の一つである「⑥ 実践型社会連携教育の推進」を踏まえ「実践型水辺環境学及び演習」「ESD実践演習」、ならびに国際インターンシップの充実による実践型社会連携教育の展開を図る。「⑦ 全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成」については、「7 国際共同による教育の状況」について「国際交流プログラムの拡充と国際インターンシッププログラムの学部全体への展開を盛り込んだ。 教育担当理事の掲げた「② 総合的学習支援」を踏まえ、「2 教育方法・内容について」「4 学生支援について」にキャリア教育の推進とキャリア支援の継続を掲げた。 大学改革担当理事の掲げた「① 大学改革の着実な実施」を踏まえ、留学生の受入と海外派遣の方策として「5 国際共同による教育の状況について」「6 外国人留学生の受入状況について」にGP特別コースや国際インターンシップの拡充、ディスカバリープログラムへの科目提供などを盛り込んだ。</p>	<p>①-2 大学全体への貢献</p> <p>本学の組織目標の「1 大学として定める目標」の「② 学びの強化のための諸施策の実施」については、学部組織目標「1 教育の実施体制」「2 教育方法・内容について」に教授法の改善に向けた研修会を実施し、学生アンケートに基づくカリキュラム改善を達成した。環境理工学部教育の柱の一つである「⑥ 実践型社会連携教育の推進」を踏まえ「実践型水辺環境学及び演習」「ESD実践演習」、ならびに国際インターンシップの充実を行った。「⑦ 全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成」については、国際交流プログラムを拡充し、国際インターンシッププログラムを学部全体へ展開した。 教育担当理事の掲げた「② 総合的学習支援」を踏まえ、「2 教育方法・内容について」「4 学生支援について」にキャリア教育を継続した。 大学改革担当理事の掲げた「① 大学改革の着実な実施」を踏まえ、留学生の受入と海外派遣の方策としてGP特別コースや国際インターンシップの拡充、ディスカバリープログラムへの科目の学部学生受講体制の整備を行った。</p>
<p>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願倍率: 一般入試(前期日程) 2.5倍 ・留年・休学・退学者数: 5%減(対H28実績) ・就職率: 95%以上 ・大学院への進学率: 50% 	<p>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願倍率: 一般入試(前期日程) 1.9倍 目標の数字を下回り、次年度の改善策の大きな動機となった。 ・休学者数(H29 14名、H28 17名)・退学者数(H29 5名、H28 6名): 対前年比5%減以上を達成した。 ・就職率: 98.9% 目標以上の数値を達成した。 ・大学院への進学率: 40%で目標をやや下回った。
②研究領域	
<p>②-1 目標</p> <p>1 環境生命科学研究科と連携し ・質の高い課題研究を指導し、研究水準の向上に努める。 ・積極的な異分野融合研究を提案する。 ・学部研究報告等を通じた効率的な情報発信により研究成果の社会還元を図る。 ・共同研究を推進する。 ・外部競争的資金(科研費など)の積極的な申請を支援する。</p> <p>2 研究倫理教育について、教職員と学生を対象に更なる充実を図る。</p>	<p>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1. 環境生命科学研究科と連携して、卒業論文の作成等について、質の高い課題研究を指導することに努めた。また、本学部教員の教育・研究活動状況を広報するため、環境理工学部研究報告には、着書、原著論文、総説、研究受賞等、博士論文指導などについて全教員の業績のほかに、卒業論文のリストも載せ、本学部研究報告を電子データにより発刊し、本学術成果リポジトリHPにも掲載した。 ・科研費に関して、代議員会議・運営会議と各学科の教室会議を通して全構成員に科研費申請を促すとともに、若手教員がいる研究教育分野の教授に対して、若手教員の申請書の添削を依頼した。さらに、H29年度申請を行わなかった教員に対して個別に訪問し、科研費申請を依頼した。また、研究科と協力して、希望者に対して申請書の添削を行った。 ・(異分野融合研究の提案と共同研究実施状況については研究科から報告する。)</p> <p>2. 学部4年生の卒論履修有資格者を対象に研究倫理に関する集合研修会を3回実施した(履修率: 98.7%)。</p>

<p>②-2 全学の組織目標との関連</p> <p>本学の組織目標の「1 大学として定める目標」の「④ 研究大学「岡山大学」の構築」を踏まえ、学部組織目標に環境生命科学研究所と連携し「質の高い課題研究を指導し、研究水準の向上に努める」及び「積極的な異分野融合研究を提案する」を盛り込んだ。また、「① 法令遵守の徹底」を踏まえ、研究倫理教育について、教職員と学生TAを対象に更なる充実を図る。研究担当理事の掲げた「① 外部研究資金等の獲得の推進」を踏まえ、「外部競争的資金(科研費など)の積極的な申請を支援する」を盛り込んだ。</p>	<p>②-2 大学全体への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部研究報告を電子データにより発刊し、本学学術成果リポジトリに提供した。 ・研究倫理に関する集合研修会により倫理観の涵養に努めた。 ・科研費に関しては、H29年度の「継続&応募率」88%だったのに対し、H30年度は99%(実数で90%)となり、「継続&応募率」が向上した。
<p>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費申請率・採択率:申請率85%,採択率65%(継続含む) 	<p>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費申請率・採択率:申請率99%,採択率48%(継続含む)

③ 社会貢献(診療を含む)領域

<p>③-1 目標</p> <p>1 地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、高大連携による大学訪問、高校への出張講義、スーパーサイエンスハイスクール校への支援協力、グローバルサイエンスキャンパスへの科目提供を通じて、地域の高等学校等との連携を図る。 ・公開講座等を通じて地域住民への貢献を行う。 ・教員免許更新制度等を通じて岡山地域を中心とした教員への貢献を行う。 ・岡山の地元企業とその企業の海外生産拠点と協同で運用を開始した「インターンシップ」環境ものづくり国際インターンシップ」を推進し、地場産業の活性化に貢献する。 <p>2 国際交流・協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上述の「GP特別コース」を実施し、地域行政機関やNPO等との連携により地域社会との交流を図るとともに、タイ国カセサート大学・国立台湾大学・プリティッシュコロンビア大学等の海外大学との間の交換留学により国際交流を図る。 	<p>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1 地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスでは859人(対前年比31.7%増)の参加者があり、研究室見学等を通じた丁寧な説明を行った。また、保護者説明会を同時に開催(72名参加し)、学部の説明に加えて個別相談を実施した。更に、前述の学部独自の高校訪問(81校)に加え、教員(延べ)13人の高等学校への講師派遣、12校の高等学校の大学訪問受入を行い高大連携を図った。また、スーパーサイエンスハイスクール校への事業協力等により地域の高等学校との連携を深めた。 ・今年度も公開講座を継続実施することにより、環境学の役割や魅力を社会に対して伝えることができた。 ・高校生を対象とした「科学先取りGC岡山(環境系基礎コース)」に講師2名を派遣し、若年層の科学教育に貢献した。 ・教員免許更新講習の講義を本年度も7講座開講し、教員の環境教育を中心とした知識向上に貢献することができた。 ・岡山地元企業と協働して「環境ものづくり国際インターンシッププログラム」を実施し、学生交流を通して地域産業の活性化に貢献した。 <p>2 国際交流・協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上述の「GP特別コース」による実践型環境教育を実施し、地域行政機関やNPO等との連携により地域貢献を果たした。また、タイ国カセサート大学・国立台湾大学・プリティッシュコロンビア大学等の海外大学との間の交換留学により、国際交流・協力についても役割を果たすことができた。
<p>③-2 全学の組織目標との関連</p> <p>本学の組織目標の「1 大学として定める目標」の「⑦ 全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成」を踏まえ、学部組織目標「2 国際交流・協力」に海外大学との間の交換留学による国際交流を盛り込んだ。</p>	<p>③-2 大学全体への貢献</p> <p>本学の組織目標の「1 大学として定める目標」の「⑦ 全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成」を踏まえ、EPOKによる学生の留学、GP特別コースでの学生派遣と受け入れ、国際インターンシップでの学生派遣など、国際交流事業を推進した。</p>
<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座:環境理工学部公開講座の実施 ・海外派遣学生数:17名 ・環境生命科学研究所としての受入数:157名 	<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座:環境理工学部公開講座を実施し、74名が参加した。(7/29-30) ・海外派遣学生数:14名 ・環境理工学部としての受入数:25名

④ 管理運営領域

<p>④-1 目標</p> <p>1 部局運営体制の改善強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年度に行った調査結果にもとづいた学部ミッションの再構築を行い、学部としての基盤強化を図るとともに、改組強化を検討する。また、グローバル・ディスカバリー・プログラムへの協力体制を整え、カリキュラム提供と学生受け入れ等を通して貢献するとともに、マッチングプログラムコース課題研究の指導を通してプログラム支援を継続する。 <p>2 部局組織の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代議員会議や教授会等の機会を通して更なる情報の共有化を図る。 <p>3 ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学サテライト研修制度や研究科独自のサテライト研修制度等を利用して、教員の海外研修を促す。また、女性研究者のスキルアップ支援による研究力の強化及び研究環境の整備のために全学の支援制度への積極的な活用を促す。 <p>4 効率的・戦略的な予算配分・執行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生派遣のプログラム開発等、その必要性に応じて適切な予算配分と執行を行い、教育・研究の活性化を図る。 <p>5 安全衛生に対する配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部安全衛生委員会等を通して、情報の共有と安全衛生に対する配慮を強化する。 ・化学物質リスクアセスメントの実施を支援する。 <p>6 施設整備の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生を最優先に施設整備を計画的に実施する。 <p>7 法令遵守の徹底について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科と協力しながら、コンプライアンス教育に努めるとともに体制を強化する。 	<p>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1 部局運営体制の改善強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実践型グローバル環境教育と研究」という学部ミッションのもと、ESD教育やユネスコチャーター活動を通して、SDGsへの貢献を目標とした学部基盤の強化を図ることができた。また、SDGs対応に焦点を絞った研究科講座再編を先行実施し、研究科と連携して教育研究体制を強化した。GDPへの協力体制を整備し、カリキュラム提供と学生受け入れを開始した。 <p>2 部局組織の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代議員会議や教授会等を定期的に開催し、情報の共有化を図った。 <p>3 ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修制度等を利用して教員の海外研修は達成できていない。教職員の長期研修が可能となるように、教員の負担軽減を考える必要がある。また、女性研究者に関しては、WTT制度やワンアップ制度による活性化を実施することができた。 <p>4 効率的・戦略的な予算配分・執行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の海外派遣に関する既存プログラムに加えて、ベネッセ㈱と開発した海外研修プログラム等に予算を配分し、教育・研究の活性化を図った。 <p>5 安全衛生に対する配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部安全衛生委員会を定例開催し、情報の共有と安全衛生に対する配慮を強化した。 ・化学物質リスクアセスメントの講習会を開催し、その実施を支援した。 <p>6 施設整備の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生とのヒアリングを通して、施設整備計画を策定した。また、産医巡視や学部安全衛生巡視などの指摘事項については、速やかに改善や改修を行った。また、今年度は特に、総合研究棟の非常ベルや放送設備の増設を行い、安全な環境整備に努めた。 <p>7 法令遵守の徹底について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修、ハラスメント研修、ならびに情報セキュリティセミナーを実施し、コンプライアンス教育に努めた。
<p>④-2 全学の組織目標との関連</p> <p>本学の組織目標の「1 大学として定める目標」の「⑨ 効率的かつ戦略的な予算配分と経費節減」、「⑩ 創造的学部、岡山大学」の形成に向けた施設整備の推進」ならびに「⑪ 法令遵守の徹底」、企画・総務担当理事の掲げた「① ガバナンス機能・運営体制等の強化」、「② ダイバーシティの推進」、「③ 組織の活性化」、「④ ハラスメントの防止体制の強化」、ならびに財務・施設担当理事の掲げた「① 資産の効率的・効果的な運用」、「② 快適で高機能な教育研究環境の確保」、「④ 危機管理体制の充実」を踏まえ、学長・役員執行部と部局長等との連携を継続的に図り、しっかりとした情報共有によって学部の機能強化と活性化を進める。また、ハラスメント防止や法令遵守を含めた倫理観に基づいた行動を啓発する。</p>	<p>④-2 大学全体への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横野ビジョンの柱であるSDGsへの貢献に関して、これまで蓄積してきた学部の教育研究成果を通して貢献することができ、さらなる体制の強化に着手することができた。 ・本学の組織目標の「1 大学として定める目標」の「⑨ 効率的かつ戦略的な予算配分と経費節減」、「⑩ 創造的学部、岡山大学」の形成に向けた施設整備の推進」ならびに「⑪ 法令遵守の徹底」に貢献できた。加えて、ガバナンス機能・運営体制等の強化、ダイバーシティの推進、SDGsを通じた組織の活性化、ハラスメントの防止体制の強化、資産の効率的・効果的な運用、危機管理体制の充実に関しても改善を図り貢献できた。
<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修の実施:2回以上 ・環境理工学部教員研修会の実施:4回以上 	<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修:3回 ・環境理工学部教員研修会の実施:4回

【総括記述欄】

環境問題の特質性から、異分野融合・実践知・グローバル化を学部ミッションに掲げ、ESDを基盤とした実践型環境教育と研究、そしてこれらに基づいたグローバルな人材育成の展開に取り組んだ。特に、これまでに取り組んできたESDやユネスコチャーター活動を基盤とした教育研究成果により、横野ビジョンで掲げられているSDGsの推進に貢献することができた。特に実践型グローバル環境教育に力を入れ、①ESD実践演習科目を拡充し、実践型教育をより充実させたこと、②推薦入試で外部英語検定試験の導入を決定し、英語に興味ある学生獲得への足掛かりを作ったこと、③教員移管などGDPへの積極的な参画と英語での提供授業科目の学部生受講環境を整備したこと、④環境ものづくり国際インターンシップの募集対象学生を学科から学部へと拡大したこと、⑤ベネッセ㈱と協働して英語で環境を学ぶことができる海外研修プログラムを開発し、平成30年度から実施すること、⑥技術者倫理、研究倫理に加えて、ガイダンス科目「環境理工学入門」に環境倫理を導入し、倫理教育を充実させたことなどを重点的取り組みとして挙げることができた。学部アドミッションポリシーに合った受験生確保に努めたが、昨年度に比べて2学科で志願者倍率が上がったものの、2学科で下がったために、学部志願者倍率が下がった結果となった。他の理系学部と連携をとりながら、次年度の重点課題として入試・広報・教育の一体改革による志願者倍率の向上に取り組む。